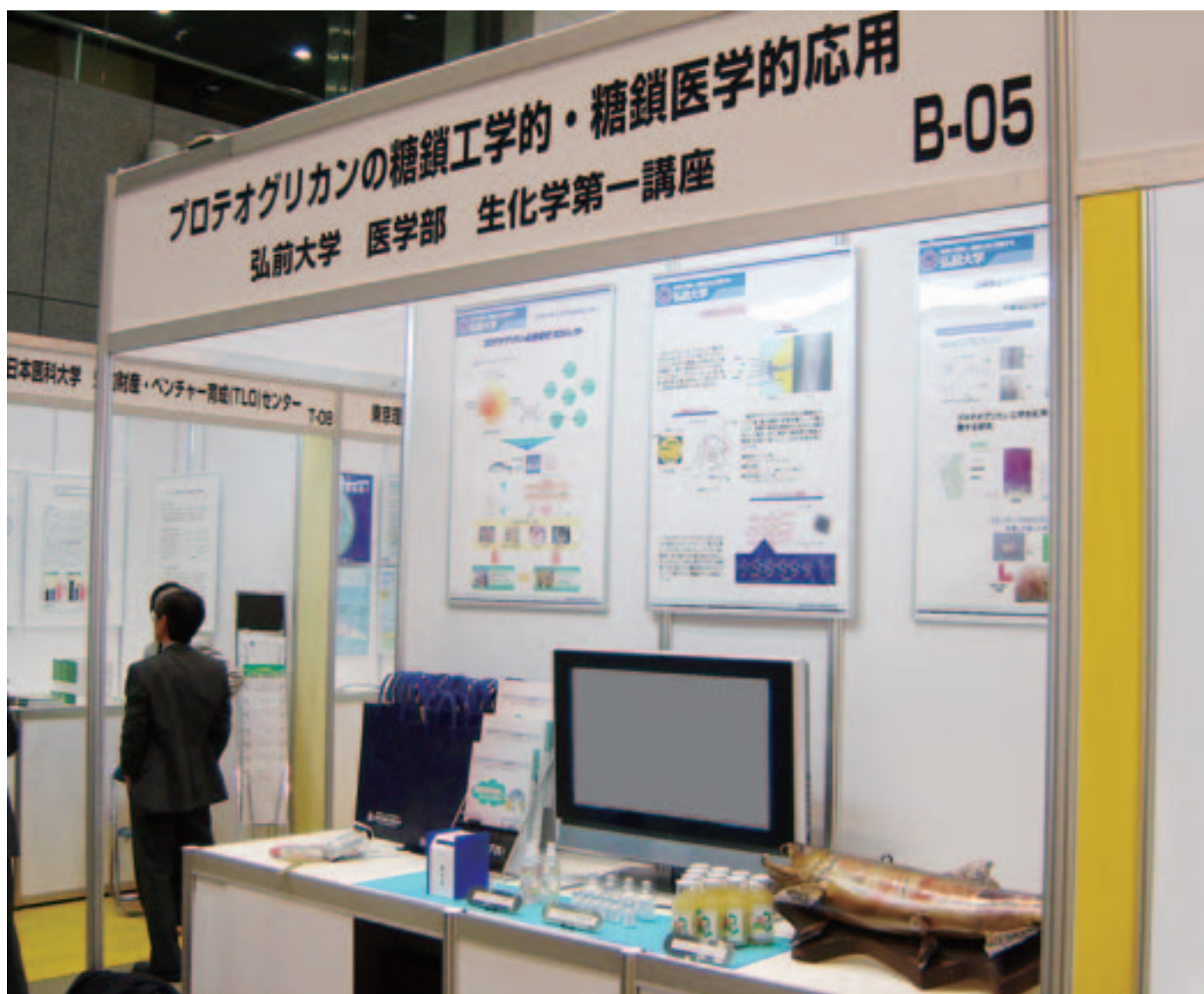


# CJR CENTER NEWS | Vol. 12

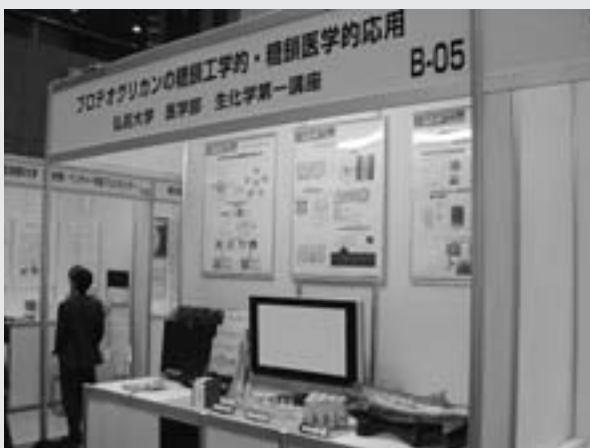


弘前大学地域共同研究センター

Center for Joint Research, Hiroshima University

# 目次

●巻頭言	
「大学の情報発信力の強化を」 弘前大学理事 久慈一英	1
●センター活動報告	2
●スタッフの紹介	9
●平成17年度客員教授の紹介	12
●平成17年度特任コーディネーターの紹介	13
●センター日誌	13
●平成17年度共同研究受入状況	14
●平成17年度受託研究受入状況	14
●東京事務所のご案内	15
●編集後記	16
●弘前大学位置図	17



～表紙の写真～

## 「イノベーションジャパン2005」に出展

9月27日～29日の3日間、東京国際フォーラムにて「イノベーション・ジャパン2005 大学見本市」が開催されました。当大学からはライフサイエンス・バイオ部門にプロテオグリカン応用研究についてのブースを出展し、研究内容のパネル展示に加え、パンフレット、ビデオなどによりプロジェクトの紹介をいたしました。（プロテオグリカン応用研究プロジェクトについてはP.6をご覧ください）

# 「大学の情報発信力の強化を」



弘前大学理事 久慈 一英

先般、平成16年度の青森県工業統計速報が発表された。速報をもとに、いくつかの集計項目について10年前の平成7年と今回発表された平成16年とを比較してみた。

○事業所数	7年	2,705事業所
	16年	1,880事業所
		825事業所の減 (▲30.5%)
○従業者数	7年	81,597人
	16年	59,914人
		21,683人の減 (▲26.6%)
○製造品出荷額等	7年	13,459億円
	16年	12,643億円
		816億円の減 (▲6.0%)

この数字が示すように、この10年間で青森県の製造業は事業所、従業者とも大幅に減少し、製造品出荷額等においても低迷が続いている。

統計はこうなった実態に分析を加えていないが、日本企業の海外移転に伴う国内産業の空洞化の影響、加えて青森県内に強力なリーディング産業・企業が育ってこなかったことが、このような結果をまねいているものと思われる。

仮にこのような製造業の低迷傾向が今後も続くとしたならば、青森県の若者の県外流出、少子化、人口の急激な減少、経済の縮小、自治体財政の硬直化などの課題が目白押しとなっ

てしまうであろう。

弘前大学は平成16年4月に新しいスタートを切った。弘前大学の立地する青森県は、製造業ひとつをとっても前述のように多くの課題を抱えており、大学がいかにして地域の期待に応え、貢献できるかが問われている中での船出となったのではなかろうか。

「地域と共に」をモットーに、地域の発展への貢献及び産学官の連携強化を掲げる弘前大学としては、地方に立地する大学に課せられている役割と地域の現状を直視し、教員自らが大学の外へ積極的に出かけ、現場で悩む方々の頭脳となつていただくよう期待したい。

最近、新聞等マスコミで弘前大学に関するニュースを目にすることが非常に多くなってきたように感じられる。大学が積極的に情報発信していることもあるのだろうが、何にも増して、学長自らが各地の行催事に出向き、大学の地域貢献に関する基本方針等について直接述べるトップセールスが大きなインパクトになり、大学の好感度を高めている結果と思っている。

今こそ大学が内において来る人を待つのではなく、積極的に外へ売りに出る情報の発信力が求められていると思う。10年後の弘前大学はどんな変身をしているのであろうか。

## センター活動報告（主なもの）

平成17年4月～

### 第4回産学官連携推進会議

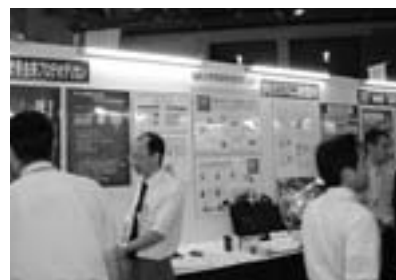
この会議は産学官連携の推進を担う第一線のリーダーや実務経験者等を対象に、具体的な課題について研究協議、情報交換、対話・交流・展示等の場が設けられたもので毎年京都市で開催されています。今年は6月25日、26日に行われ、当センターも展示ブースにて本学の研究シーズ及び本学帰属の知的財産権を紹介致しました。当日は研究機関や大学、民間企業など多くの方が来場し、様々な分野の方との活発な意見や情報交換を行いました。

■平成17年6月25日(土)10:00～21:00、26日(日)8:45～13:00

国立京都国際会館（京都市）

■主 催：内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、  
日本経済団体連合会、日本学術会議

■参加者：産学官の第一線のリーダーや実務者・専門家等(約3,200人)



### 産学官連携フェア in 八戸「見てみて、聞いてみて、触ってみて、弘前大学」

弘前大学では、法人化一年前の平成14年6月に八戸駅前ユートリーに弘前大学八戸サテライトを設置し、そこを拠点とし、八戸地域の皆様方との連携促進の諸活動を実施してまいりました。今回、昨年弘前市で開催し好評を得た産学官連携フェア「見てみて、聞いてみて、触ってみて、弘前大学」を八戸の地で開催いたしました。当日は遠藤学長による特別講演のほか、学内外からパネリストを招いてパネルディスカッションが行われました。また研究シーズを紹介したポスター展示（約80件）や産学官連携事業紹介として企業関係者によるブース展示（15ブース）も行われ、会場に訪れた方々と交流をはかりました。

■平成17年9月1日（木）13:00～17:30

(財)八戸地域地場産業振興センター（ユートリー）  
1階多目的ホール（八戸市）

#### ■内容

##### ◇開会挨拶

弘前大学理事（社会連携担当） 久慈 一英

①特別講演 弘前大学長 遠藤 正彦

②パネルディスカッション

テ ー マ：『産学官連携の新戦略  
—弘前大学の活用を考える—』

パネラー：

八戸市 助役 大河原 隆

(株)八戸インテリジェントプラザ 副所長 毛利 邦彦

(株)興和 取締役 上平 好弘

青森県信用金庫協会 副会長 小野 隆

弘前大学地域共同研究センター 副センター長 内山 大史

コーディネーター：

青森県商工労働部 理事 小林 正基

③研究シーズの公表（ポスター展示）

④産学官連携事業の紹介（ブース展示）

##### ◇挨拶

弘前大学地域共同研究センター長 加藤 陽治





## 平成17年度東北地区共同研究センター連絡協議会



この協議会は東北地区国立大学法人の共同研究センターが産学官連携、地域貢献及び知的財産活用推進に関してセンター間の連絡を密にすることを目的に毎年開いているもので、今回は当センターの主催で38名の参加を得て行なわれました。

当日は文部科学省笹川技術移転推進室長補佐から「文部科学省における産学官連携・知的財産関係施策」と題しての施策説明、各大学から提出された協議事項についての報告など、活発な意見交換が行なわれました。

■平成17年9月22日（木） シティ弘前ホテル（弘前市） 協議会14：00～、情報交換会19：00～

- 議題
1. 産学連携・知的財産活動推進のための学内組織体制に係る協議（照合）事項
  2. 産学連携推進に係る協議（照合）事項
  3. 知的財産活動推進のための協議（照合）事項

## 弘前大学総合文化祭

第5回総合文化祭が10月28日～30日にかけて文京キャンパスで開催されました。当センターは29日、30日の2日間、総合教育棟2階の大会議室で、地元企業との共同研究・受託研究の成果発表、センター教員の研究発表、地元企業製品の展示をいたしました。



## 首都圏における産学官連携の取組状況及び弘前大学東京事務所における事業成果の記者発表

10月6日弘前大学東京事務所にて抗老化食品「発酵古代米」の開発について記者会見を行いました。「発酵古代米」は東京都にあるオリジン生化学研究所との共同研究により開発されたもので、この発酵古代米にビタミンEなどを加え、顆粒状にした健康食品「オリゴールド」が10月23日、コスメディカルジャパン（本社・東京都）より発売されました。

■平成17年10月6日（木） 弘前大学東京事務所（東京都八重洲）

■記者会見出席者

弘前大学地域共同研究センター長	加藤 陽治
弘前大学地域共同研究センター 産学官連携コーディネーター	野呂 治
オリジン生化学研究所長	前田 浩明
オリジン生化学研究所主任研究員	伊藤 聖子



## 「コラボ産学官」青森支部の設立

10月20日青森市内においてコラボ産学官青森支部設立総会が開かれました。コラボ産学官青森支部は県内の5信用金庫で組織する県信用金庫協会が母体となり設立されたものです。県内企業200社が会員として加盟し、県協会が全国の加盟大学や他企業との橋渡し役をすることになります。記念式典では遠藤学長による講演が行われ、大学の産学官連携の取組みについて話されました。

■平成17年10月20日（木）13：00～ ホテル青森（青森市）



## ● センター活動報告（主なもの） 平成17年4月～

## 2005弘前大学技術シーズセミナー in 東京

このセミナーは当センターと弘前オフィス・アルカディア企業立地促進協議会が主催者となり、弘前大学の医療・健康・ライフサイエンス分野等の最前線の研究内容を首都圏の企業の皆様に紹介し、共同研究の活性化や産業振興に繋げることを目的に開催したものです。当日は首都圏の約50社の企業関係者の参加が得られ、当大学から5名の教授らが各分野の研究内容をテーマに発表いたしました。

■平成17年11月25日(金)朝日信金西町ビル(東京都)

セミナー 15:00～17:45

情報交換会 18:00～

■内容

(1)挨拶

弘前オフィス・アルカディア企業立地促進協議会  
会長 油川 亜夫 (弘前市商工観光部長)

(2)弘前市の現状について説明

弘前市商工労政課主査 三浦 直美

(3)弘前大学の研究・支援内容説明

「弘前大学における医用システムの研究状況」

弘前大学理工学部教授 宮田 寛

「プロテオグリカンのポテンシャル」

弘前大学医学部教授 高垣 啓一

「弘前大発の「機能性食品」を目指して」

弘前大学地域共同研究センター長 教授

加藤 陽治

「弘前大学におけるライフサイエンス分野の知財戦略」

弘前大学知的財産管理アドバイザー

小野寺徳郎

「弘前大学 GOGO ファンドについて」

弘前大学学術情報部社会連携課長

新谷 哲雄



## 平成17年度地域新生コンソーシアム研究開発事業採択

経済産業省では、地域において事業化に直結する技術開発を促進することにより、新産業の創出を促し、もって地域経済の再生を図ることを目的とした提案公募型の地域技術開発事業を実施しています。平成17年度予算(予算額:199.6億円)において、新規採択に係る公募を行ったところ、合わせて735件の応募がありました。この応募について、書面・ヒアリング等による厳正な審査を行い、合わせて193件の採択を決定しました。(経済産業省ホームページより)

事業名:「グリコアルブミン値の無侵襲型携帯用光測定計の研究開発」

管理法人:国立大学法人弘前大学

総括研究代表者(PL):弘前大学地域共同研究センター長 加藤 陽治

副総括研究代表者(SPL):東和電機工業株式会社研究開発課長 齋藤 光憲

研究実施者:弘前大学教育学部、医学部、地域共同研究センター、東和電機工業株式会社、株式会社シバタ医理科

## その他の出展等参加事業

当センターでは各種イベントへの参加を積極的に行い、研究成果を紹介するとともに活用のための情報を発信し、企業の方々と交流をはかっております。

- イノベーション・ジャパン2005大学見本市
  - ・平成17年9月27日（火）～29日（木）
  - ・東京国際フォーラム（東京都）
- 第3回あきぎん・いわぎん・あおぎんビジネス商談会 by Netbix
  - ・平成17年10月21日（金）
  - ・秋田県立武道館（秋田市）
- あおり産学官連携推進会議フォーラム2005
  - ・平成17年10月25日（火）
  - ・青森国際ホテル（青森市）
- 産学官連携イノベーションフェア in 北海道／ビジネスEXPO「第19回北海道技術・ビジネス交流会」
  - ・平成17年11月10日（木）～11日（金）
  - ・アクセスサッポロ（札幌市）
- 第7回産業ときめきフェア in EDOGAWA
  - ・平成17年11月18日（金）～19日（土）
  - ・タワーホール船堀（東京都）
- 地域発先端テクノフェア
  - ・平成17年11月30日（水）～12月2日（金）
  - ・東京国際展示場
- 東北インキュベーションマネージャー会議
  - ・平成17年12月1日（木）
  - ・弘前シティホテル



地域発先端テクノフェアの様子

## 今後の主な活動予定

- 平成18年1月27日 弘前大学と八戸高専とのシーズ提案会
- 2月6日 2006TOHOKU クラスターコラボレーション（出展）
- 2月7日 都市エリア成果報告会
- 3月 平成17年度地域共同センター客員教授調査報告会

\*行事などの詳細については当センターホームページをご覧ください。<http://www1.cjr.hirosaki-u.ac.jp/>

## プロテオグリカン応用研究プロジェクトについて（都市エリア産学官連携促進事業）

### ■プロジェクトの概要

このプロジェクトは、平成16年度から18年度の3カ年、文部科学省「都市エリア産学官連携促進事業」を活用して行われます。弘前大学医学部高垣教授と青森市にある株式会社角弘によって、世界で初めて、プロテオグリカンをサケの鼻軟骨から高純度、低コストに大量精製する技術\*が開発されました。本プロジェクトでは、この技術と弘前大学の伝統的な糖質研究資源を活かし、医療・化粧品、健康・福祉分野等におけるプロテオグリカンに特化した新たな産業創出を図るため、弘前大学の学部横断的な研究組織である「弘前大学プロテオグリカンネットワークス」を中心に産学官連携基盤を整備し、プロテオグリカン応用製品の実用化へ向け、シーズ・ニーズ調査、可能性試験、研究交流会、共同研究等の事業を総合的に実施いたします。 ※日米特許取得

- シーズ・ニーズ調査の実施：国内外の産業界におけるプロテオグリカンのニーズ、市場動向調査等を実施します。
- 特許関連調査・マーケティング調査の実施：関連特許の調査や、共同研究分野における市場調査等を実施します。
- 研究交流会の開催：弘前大学プロテオグリカンネットワークスと本事業の参画企業、公設研究機関等による勉強会を開催します。
- 可能性試験の実施：研究交流会やシーズ・ニーズ調査の結果をもとに、その実現可能性を見極めるため、可能性試験を実施します。
- 新技術説明会の開催：可能性試験の結果や研究シーズについて、地域企業等を対象とした技術説明会を開催します。
- 共同研究の実施：ニーズ・シーズ調査、可能性試験の成果等から、具体的なテーマをもとに、弘前大学と参画企業による共同研究を実施します。

### ■プロテオグリカンとは？

プロテオグリカンは、タンパク質と糖鎖（グリコサミノグリカン）が共有結合した複合糖質の一種です。コラーゲンやヒアルロン酸とならぶ動物の軟骨の主成分でもあり、保水性に優れ、経口摂取も可能な、人体にきわめて安全な素材です。



#### 抽出技術及び製品の特長

- 原材料はサケの鼻軟骨
  - 抽出試薬は酢酸、食塩、エタノールのみ
  - 極めて安全な素材であり、経口摂取が可能
  - 大量抽出可能
  - 高純度で低価格が可能
- サケ鼻軟骨プロテオグリカンの応用分野(一例)**
- 変形性関節症等の治療剤としての間接注入剤
  - 寝たきり老人及び入院患者の介護用品もしくは医薬品
  - 皮膚に対して必要な保水効果の高い化粧品
  - 消化されないことを利用した機能性食品
  - 人工臓器素材への応用
  - 解毒、鎮痛作用を利用した医薬品
  - DDS キャリアー

### ■参加研究機関

産…大塚化学(株)、(株)角弘、カネシヨウ(株)、(株)キョーエイ、(株)コーセイ、(株)シバタ医理科、高砂食品(株)、東北化学薬品(株)、並木精密宝石(株)、(株)ニチロ、日清キョーリン製薬(株)、日本水産(株)、(株)ファンケル、(有)オリジン生化学研究所

学…国立大学法人弘前大学

官…青森県工業総合研究センター弘前地域技術研究所



## 産学官連携組織「ひろさき産学官連携フォーラム」

「ひろさき産学官連携フォーラム」は平成17年1月に設立された、企業、大学、公的研究機関、行政、金融機関等による連携・交流組織です。「産学官連携」を促進し、地域における『産業の芽』の発掘と、新たな事業展開やサービスを開始する企業の創出を目的といたします。

### ■活動内容

#### (1)普及啓発・情報提供事業

##### ①講演会・セミナーの開催

企業活動や研究活動の参考になるような講演会・セミナーを定期的に開催し、会員の知見、技術の向上と会員相互のネットワークの構築を図り、調査研究開発を促します。

##### ②情報収集・提供

全国規模で開催されるフォーラム等への参加、先進地視察、展示会等への出展を通じ、情報発信を行います。

#### (2)調査研究支援事業

##### ①研究会の運営

個別テーマにおける調査研究を促進するため、研究会活動に要する経費の一部を助成します。

(例)勉強会、サロンの開催、各種調査の実施、試作品の試作、情報収集、展示会出展など

##### ②研究開発助成制度等の情報提供

国等の研究開発の公募情報等を提供すると共に、研究開発プロジェクトの体制、申請手続き等をサポートいたします。

■会員数 法人会員 45社、個人会員 30名  
(平成17年7月末現在)

### ■設置研究会

- ・Ring-o ネット研究会
- ・微細加工・計測研究会
- ・りんご鹿角霊芝研究会 ほか

### ■平成17年度主な活動実績

#### ◇セミナー・講演会

「経済産業省における産業政策の方向性と産学官連携のヒント」

東北経済産業局

青森県チーム長 泉 秀明氏

「青森県における産学官連携事例と制度」

(財)21あおり産業総合支援センター

プロジェクトマネージャー 山口 紀久氏

「デザインマーケティング講座」

弘前大学地域共同研究センター

特任コーディネーター 比良木高幸氏

「りんご加工大学」

「耐熱性好酸性菌の測定法」

青森県工業総合研究センター弘前地域技術研究所

奈良岡 馨氏、高橋 匡氏

「りんご搾汁残渣の飼料としての利用」

青森県工業総合研究センター弘前地域技術研究所

斎藤 知明氏

「GAP（適正農業規範）について」

片山りんご(有)

片山 寿伸氏

「清涼飲料水の HACCAP について」

弘前保健所 生活衛生課長 佐々木 肇氏

「農産物加工副産物を原料とした機能性脂質セラミドの生産」

北海道農業研究センター 畑作研究部

高桑 直也氏



### ■お問い合わせ：ひろさき産学官連携フォーラム事務局

(弘前市商工労政課)

TEL：0172-32-8106／FAX：0172-35-1105

弘前大学マッチング研究支援事業—GOGO ファンドについて

◆趣 旨

弘前大学は、青森県の産業振興並びに地域振興を図るため、県内企業が取り組んでいる実用化研究において、抱えている具体的な課題を、弘前大学の教員と共同で解決することを目指す研究に対して、研究費等を支援する事業を今年度より新たに実施します。

◆申請資格

以下の条件をすべて満たすこと

- (1)青森県内に事業所をもつ企業または県内への進出を希望している企業
- (2)おおよそ1年で解決を目指す具体的な課題を有する企業
- (3)その課題で弘前大学教員と共同研究契約を締結できる企業

◆研究分野

特に限定しない

◆研究経費

50万円以上500万円を上限とします。(年数件)

◆研究期間

共同研究契約締結日より1年間

◆申請書類

弘大 GOGO ファンド申請書

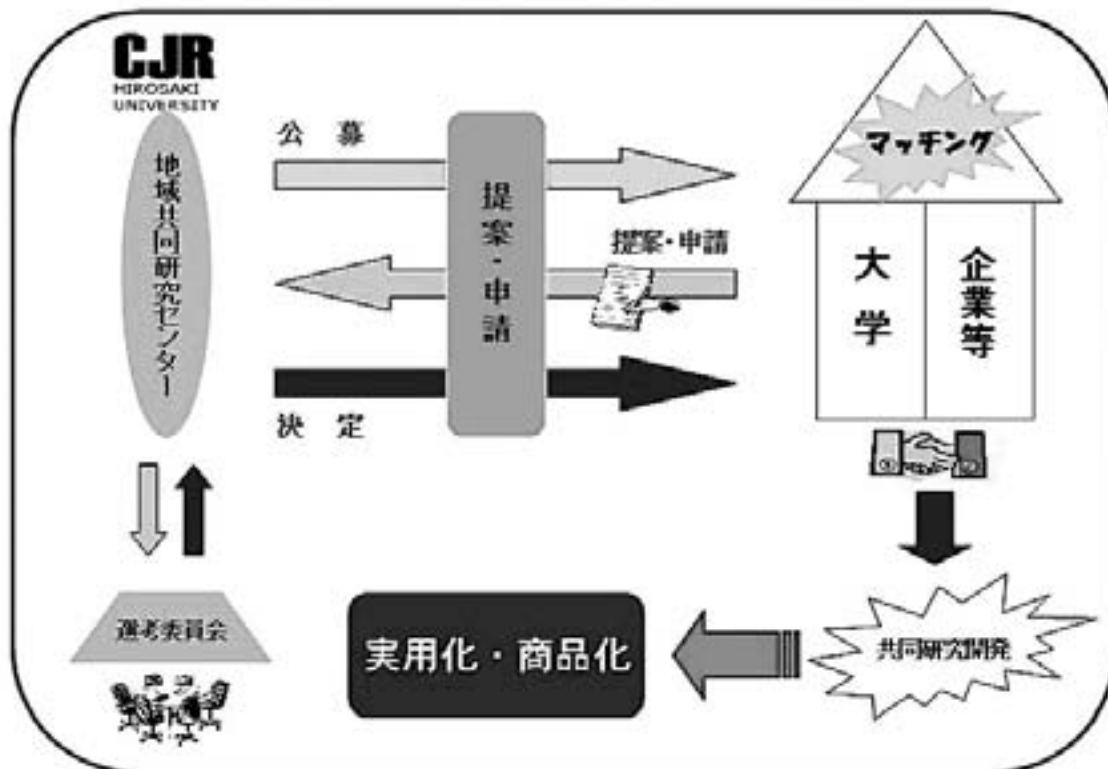
ホームページより様式をダウンロードできます。

<http://www1.cjr.hirosaki-u.ac.jp/~cjr/gogo/18gogo.html>

◆申請にあたっての留意事項

- (1)申請期間 随 時
- (2)選考等
  - ・選考は本学地域共同研究センター長他で組織する選考委員会で行う。
  - ・採否の通知は、申請書類受理後おおよそ30日以内
- (3)助成対象者（企業および弘大教員）の義務
  - ・研究成果報告書の提出：研究終了日から30日以内
  - ・論文・特許申請または製品化：研究終了日から1年以内

弘前大学マッチング研究支援事業—弘大 GOGO ファンド—の概要



## スタッフの紹介

平成17年4月より新たに兼任教員2名、科学コーディネーター2名が加わりました。



氏名 **中島 健介** (なかじま けんすけ)

所属 理工学部電子情報システム工学科  
電子情報機器学講座  
地域共同研究センター

職名 教授

e-mail knaka@si.hirosaki-u.ac.jp

### ■専門分野および研究概要

- ・高温超伝導ジョセフソン接合のテラヘルツ応答特性の解明とテラヘルツ体高感度測定システムの開発
- ・高温超伝導体薄膜の作製と電子デバイス応用
- ・超伝導量子干渉デバイス (SQUID) を用いた微弱磁界計測とその応用

### ■協力できる内容

- ・超伝導 SQUID センサーを用いた超微弱磁界測定
- ・各種材料、電子部品の極低温特性測定
- ・電子応用一般



氏名 **鈴木 裕之** (すずき ひろゆき)

所属 農学生命科学部生物生産科学科  
農業生産学講座  
地域共同研究センター

職名 教授

e-mail suzuki@cc.hirosaki-u.ac.jp

### ■専門分野および研究概要

- ・家畜繁殖学、動物発生工学
- ・哺乳動物における卵母細胞の成熟に関する研究
- ・哺乳動物における卵母細胞の活性化に関する研究
- ・哺乳動物初期胚の割球の分化と全能性に関する研究

### ■協力できる内容

- ・家畜の生産率向上について
- ・動物分野における生殖介助技術について

## ■スタッフの紹介



氏名 清末 芳生 (きよすえ よしお)

所属 地域共同研究センター

職名 科学技術コーディネーター

e-mail ykiyosue@bolero.plala.or.jp

#### ■専門分野および研究概要

ビジネスコンサルタント：バイオ／ゲノム／プロテオーム／再生医療／レギュラーサイエンス／ニュートリゲノミクス

厚生労働省関連：(財)ヒューマンサイエンス振興財団委員（7委員会）及び受託事務局（3WG）、厚生労働省認定 TLO フェロー

経済産業省関連：NEDO（新エネルギー・産業技術開発機構）コンサルタント及び受託事務局（2委員会）、JBIC（バイオ産業情報化コンソーシアム）受託事務局（2WG）

#### ■協力できる内容

上記分野のビジネスコンサルティング

上記公的職務に関連する情報提供、コンサルティング



氏名 児島 薫 (こじま かおる)

所属 地域共同研究センター

職名 科学技術コーディネーター

e-mail kojima\_k@cc.hirosaki-u.ac.jp

#### ■専門分野および研究概要

専門分野：糖鎖工学(物質の精製から構造解析まで)  
研究概要：「LC/MSによる動物、植物由来の硫酸化糖鎖の構造解析」

動物由来のグリコサミノグリカンや海藻由来のフコイタンを研究対象とし、物質の抽出精製から化学分析、機器分析による解析に携わり、特に LC/MS による糖鎖構造解析を主として行い糖鎖のみならず、タンパク質やペプチド、残留農薬、環境ホルモンなどの環境関連物質の分析も行った。

#### ■協力できる内容

プロテオグリカンに特化したコーディネーターであるため、守備範囲は狭いですが、その代わりに、これまで蓄積した糖質に関する知識と民間企業数社に在籍した際の研究、製造、営業経験を活かして、プロテオグリカンをテーマとした企業と大学の連携にご協力できればと思っております。



## ◇地域共同研究センタースタッフ◇

センター長・教授	加藤 陽治
副センター長・助教授	内山 大史
副センター長・社会連携課長	新谷 哲雄
兼任教員・人文学部教授	香取 薫
兼任教員・教育学部教授	北原 啓司
兼任教員・教育学部助教授	芳野 明
兼任教員・医学部教授	高垣 啓一
兼任教員・医学部講師	三浦 富智
兼任教員・医学部助手	野坂 大喜
兼任教員・理工学部教授	中島 健介
兼任教員・農学生命科学部教授	鈴木 裕之
産学官連携コーディネーター	野呂 治
科学技術コーディネーター	児島 薫
科学技術コーディネーター	清末 芳生
事務補佐員	石沢 貴子
技能補佐員	工藤 潤
産学官連携協力員（弘前市役所商工労政課）	笹田 哲文
産学官連携協力員（財団法人21あおもり産業総合支援センター）	横内 靖

## ◇学術情報部社会連携課◇

社会連携課長	新谷 哲雄
社会連携グループ係長	山田 修平
社会連携グループ事務職員	船木 美里
社会連携グループ事務補佐員	川村 幸子

## ◇知的財産創出本部◇

知的財産管理アドバイザー	小野寺徳郎
社会連携課社会連携グループ事務補佐員（知財本部担当）	古川 祥子

## 平成17年度 客員教授の紹介

平成16年度に引き続き、以下の方々に客員教授にご就任いただき、産学連携の推進あるいは企業と大学の架け橋になっていただいております。

小野寺 徳郎 (おのでら のりお)



所属：弘前大学知的  
財産創出本部  
職名：知的財産管理  
アドバイザー

山口 紀久 (やまぐち のりひさ)



所属：財団法人21あ  
おもり産業総合  
支援センター  
職名：プロジェクト  
マネージャー

谷田 拓男 (たにだ たくお)



所属：タニダ国際特  
許事務所  
職名：弁理士

佐藤 義夫 (さとう よしお)



所属：八戸工業高等  
専門学校地域  
テクノセンター  
職名：センター長

辻田 幸史 (つじた たかし)



所属：ジーベック国  
際特許事務所  
職名：弁理士

齋藤 正博 (さいとう まさひろ)



所属：八戸工業大学  
職名：教授・学科長

富沢 知成 (とみさわ ともなり)



所属：富沢特許事務所  
職名：弁理士

## 平成17年度 特任コーディネーターの紹介

以下の方々に特任コーディネーターにご就任いただき、  
これまでに蓄積された経験・知見等を活かし、CJR事業にご協力いただきいております。

### 伊藤 汎 (いとう ひろし)



所属：伊藤技術士事務所

職名：所長

雪国に住む小生は「雪」をテーマに企業化のできる新たな大型の産学連携プロジェクトを立ち上げたいと考えています。

関心のある方はセンターまでご連絡いただけると幸いです。

### 比良木 高幸 (ひらき たかゆき)



所属：弘前大学教育学部

職名：非常勤講師

昨年、私は日本デザイン学会誌の特集号「インハウス（企業内）デザインの課題」を編集・出版しましたが、企業のデザイン責任者の論文で印象的なキーワードが「コラボレーション」でした。異なるジャンルの専門性や方法の新たな協働で魅力ある価値を創りたいと思います。

## センター日誌

平成17年2月～平成17年3月

4月以降については17年度年報に掲載いたします。

2月 9日	CJR運営委員会
22日	バイオマスフォーラム in 弘前
3月 8日	NICHe セミナー
10日	コラボ産学官との連携による新技術説明会
11日	第3回産学交流プラザ
15日	平成16年度地域共同センター客員教授調査報告会
17日	第16回弘前産業振興懇談会 CJR運営委員会
24日	医農工連携によるニュービジネス創出シンポジウム

## 平成17年度 共同研究受入状況

平成17年11月現在

学部名	研究代表者	企業名等
地域共同研究センター	加藤 陽治	株式会社エルアイアイ
地域共同研究センター	加藤 陽治	株式会社エルアイアイ
地域共同研究センター	加藤 陽治	大間漁業協同組合
地域共同研究センター	加藤 陽治	大鰐町
地域共同研究センター	北原 啓司	津軽広域観光圏協議会

## 平成17年度 受託研究受入状況

平成17年11月現在

学部名	研究代表者	企業名等
地域共同研究センター	加藤 陽治 <sup>他</sup>	青森県
地域共同研究センター	加藤 陽治	東北経済産業局
地域共同研究センター	加藤 陽治	農林水産技術会議事務局
地域共同研究センター	野坂 大喜	財団法人21あおもり産業総合支援センター



# 東京事務所のご案内

弘前大学では、産学官の研究協力、生涯学習、広報活動、その他教育研究に関する事業を行い、弘前大学と地域社会の密接な連携を図ることを目的としてサテライトを設置しています。

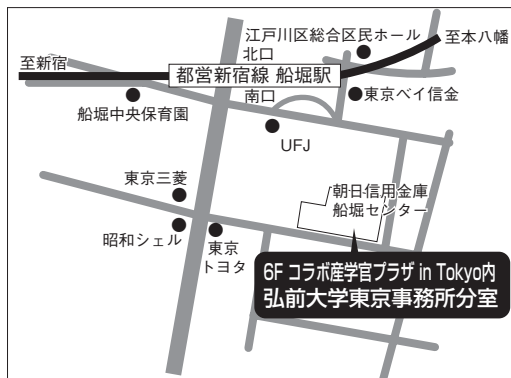
## 弘前大学東京事務所

〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目 2- 1  
住友生命八重洲ビル 5階  
青森県東京ビジネスプラザ内  
TEL/03-5201-7004  
開業時間／ 月曜日から金曜日までの  
10：00～17：00



## 弘前大学東京事務所分室

〒134-0091 東京都江戸川区船堀三丁目 5-24  
朝日信用金庫船堀センター 6階  
コラボ産学官 inTokyo 内  
TEL/03-5696-9412  
開業時間／ 月曜日から金曜日までの  
10：00～17：00



## 編集後記

記録的な大雪やら大寒波やらで、どうにも引きこもりがちになりそうな毎日ですが、われわれ地共研のメンバーは毎日活発に動いています。私もつい先日、羽田空港に降り立ち出口へと向かう途中で、上京した兼任教員にばったりと顔をあわせました。確かに弘前は本州の最北端で、交通の便も比較的悪いのかもしれませんが、それだけにかえって足を運んで膝をつき合わせて意見をかわすことの重要性を認知していると言えるでしょう。1コマめの授業に間に合うようにと夜行バスで帰ってくるメンバーさえもいるくらいですから。フットワークこそが実りある連携の鍵だ！ということで、どうぞお気軽に声をおかけください。

(兼任教員 芳野明)

当センターは、技術相談の窓口であり、また地域の皆さまと共に地域の発展に貢献することを目的としております。

お気軽にご相談ください。

---

### 国立大学法人弘前大学地域共同研究センター

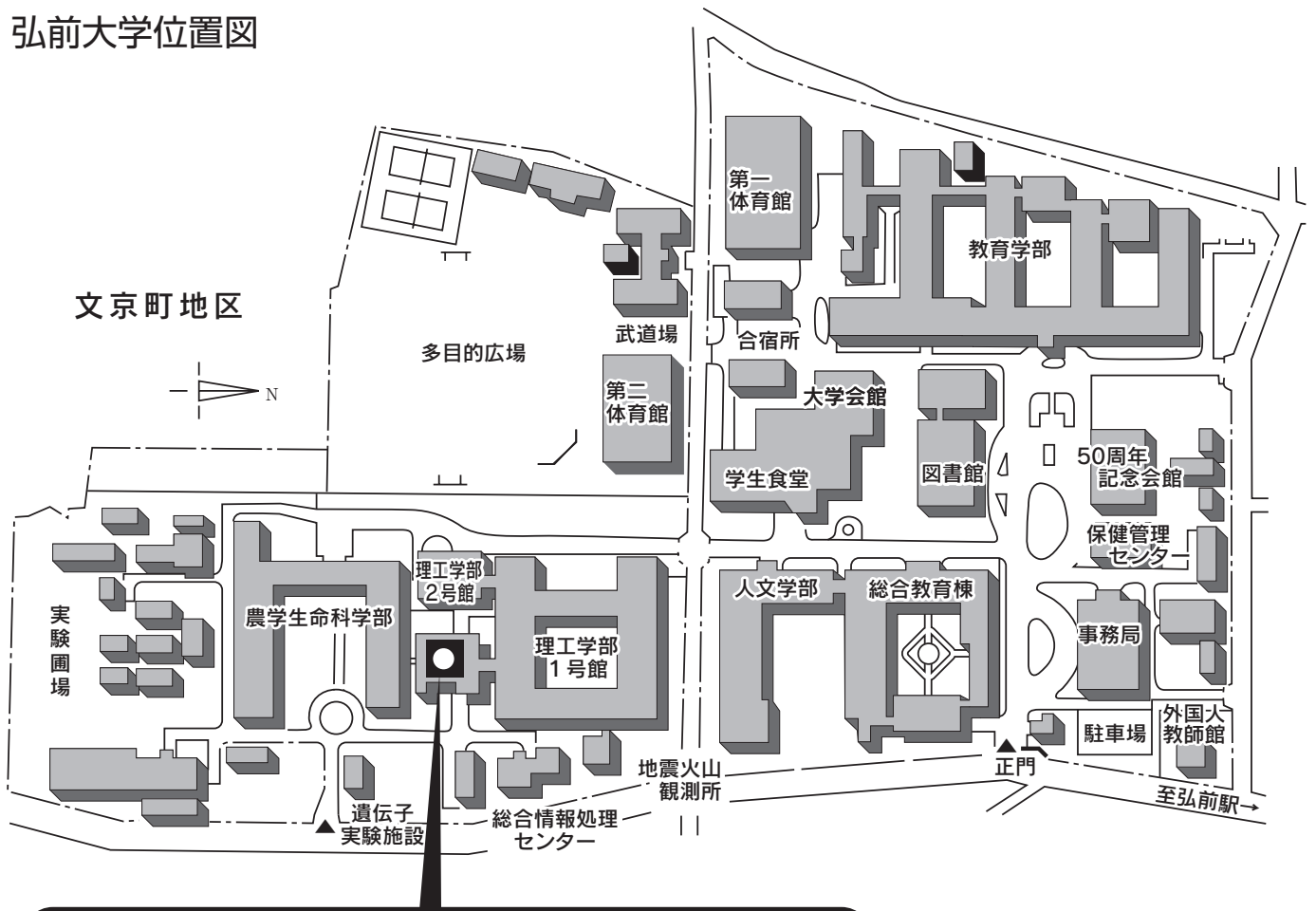
〒036-8561 青森県弘前市文京町3

TEL 0172-39-3176 FAX 0172-36-2105

E-mail [cjr@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:cjr@cc.hirosaki-u.ac.jp) <http://www1.cjr.hirosaki-u.ac.jp/>

---

# 弘前大学位置図



## 地域共同研究センター (コラボレーションセンター 1F)



## 交通案内

- JR弘前駅から弘前大学までは約2km
- JR弘前駅バス乗り場から「松原行」「狼森行」「自衛隊行」「聖愛高校行」に乗車、「弘前大学農学生命科学部前」下車。約10分
- JR弘前駅からタクシーで約5分
- 東北自動車道「大鰐弘前I.C.」「黒石I.C.」から約30分

